

医学・生物学研究のためのプロレゴメナ

科目責任者 Wolfgang Roland Ade

学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

先進国においては生活環境の変化や医療の発展により、平均寿命は延びたが生活習慣病や悪性新生物が増加し、医学・生物学研究にとっては焦眉の急を告げる問題となっている。このような状況下において、医学研究へのアプローチに関してどんな要因がどのように関与し、加えて研究課題の選択と研究の実行を左右する事項を考察する。なお、現状記述に終わるのではなく、研究現象の背後に存在する様々な要因の同定にも努め、医学研究の成就と有用性を高める環境に関しても討議する。

II. 担当教員

Wolfgang Roland Ade (医学部)

III. 一般学習目標

医学研究に対する興味を喚起するためには、その背後に潜む要因を理解する能力を身につけることが重要である。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医学研究に関する情報を収集し整理し、それらを的確に評価できるスキルを身につける。
- 2) 医学研究に関与するさまざまな要因を明示し、それらの背景を的確に指摘できる。
- 3) 発展途上国、準先進国、先進国において医学研究が直面する課題を把握し、理解できる。
- 4) 卓越した研究者になるために論理的思考と情報処理能力を発揮できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
 2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	24	水	5	医学・生物学研究への入門	Wolfgang Roland Ade	1
2	5	1	水	5	「Art」または「Science」としての医学・生物学研究	Wolfgang Roland Ade	1
3		8	水	5	医学・生物学研究における文化的因子の総論	Wolfgang Roland Ade	1
4		15	水	5	学問・歴史等の医学・生物学研究への影響	Wolfgang Roland Ade	1
5		22	水	5	発展途上国と準先進国における医学研究	Wolfgang Roland Ade	1
6		29	水	5	先進国における医学研究	Wolfgang Roland Ade	1
7	6	5	水	4	医学・生物学研究と研究費調達／将来の研究者への期待	Wolfgang Roland Ade	1

VII. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末レポート（50%）、出席状況・態度、講義中の発言（20%）、予習レポート（10%）、ミニテスト（15%）、復習レポート（5%）

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

講義中に必要に応じて配付します。

Ⅷ. 質問への対応方法

講義中いつでもどうぞ。それ以外は事前に日独連携推進室へ予約してください。内線番号は2153。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒業臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の小テストのフィードバックはメールで行います。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：予習ビデオ講義を見る（10分）、各学生1回ずつ指定文献を読んで発表を行う（90分）

事後学習：授業において関心を抱いた点について、200字程度にまとめる（20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。